

単元名 「わり算や分数を考えよう」
研究主題

数学的な見方・考え方を働かせる算数科の授業づくり
 ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して～

1 日 時 令和7年10月〇日(〇)

2 学年・学級 第3学年〇組

3 単元の目標

簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方や分数と除法の関係について理解し、計算ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して計算方法や問題場面における分数の意味について考える力を養い、既習の計算方法や分数を除法としてみた過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知っている。	①簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を考えている。	①自分が考えた除法の計算の仕方について、具体物や図と式とを関連付けて考えようとしている。

5 単元について

(1) 単元観

本単元前半で扱うのは、 $60 \div 3$ などの何十 \div 1位数(十の位で割り切れる)や、 $69 \div 3$ などの何十何 \div 1位数(各位が割り切れる)の計算である。例えば、 $60 \div 3$ の計算では、10を基に考えることで、 $69 \div 3$ の計算では、は位ごとに分けて考えることで、ともに乗九九1回適用の除法に帰着することができる。10がいくつ分あるかという単位の考えに着目して、「10をもとにすると $6 \div 3 = 2$ で、10が2こだから、答えは20になる」と考えたり、 $69 \div 3$ の計算を「69を60と9に分けて、 $60 \div 3$ と $9 \div 3$ のように、位ごとに分けて計算すれば答えが求められる」と考えたりすることによって、既習の計算に帰着して考えることができる。 20×3 の計算の仕方を「10をもとにすると $2 \times 3 = 6$ で、60」と考えたことや、 23×3 の計算を、「23を20と3に分けて、 $20 \times 3 = 60$ 、 $3 \times 3 = 9$ 、あわせて69」と考えたことを想起し、簡単な場合の2位数 \div 1位数と2位数 \times 1位数の計算の仕方の背景にある考え方が同じであると捉え、その計算の仕方を統合的に捉えていく。

本単元後半では、既習の分数の意味に着目し、等分されたテープ図を基にしながら、 $80 \div 4$ などの何十 \div 1位数(十の位で割り切れる)や、 $84 \div 4$ などの何十何 \div 1位数(各位が割り切れる)の計算を行うことで、本単元の学習の理解を深める。

(2) 児童観

① 「かけ算九九」が定着していない児童が学年で111人中15人いる(13%)。「あまりのあるわり算」においては、かけ算九九を想起するだけでなく、ひき算をしてあまりを求めるという手続きが増えるため、あまりを求めるまでの過程での計算ミスをする児童が数名いる。

また、例えば「 $17 \div 3 = 6$ あまり1」のように、自分に都合よく解釈している児童もいる。そのため、個別に指導をしているところである。

- ② 夏休み前に行ったアンケートでは「自ら進んで学ぼうとしていますか」という質問項目に、90.8%の児童が、「自分の考えを友達に説明していますか」という項目では、87.1%の児童が肯定的な回答をしている。一方、友達の意見に対して「あの子はなぜあの答えになったのだろう」「自分の考え方と、どこまでは同じで、どこからが違うのだろう」などと友達に寄り添った考え方ができる児童はまだ多くはない。そこで、視点を与えて、交流する場を繰り返し設定し、「ここまではあの子と同じ考えだ」「あの子とあの子の考えは似ている」「答えは同じだけれど、考え方に違いがある」などの発言を価値付けたりしているところである。

(3) 指導観

- ① 5・6月の2カ月間を「かけ算九九復習月間」とし、家族や異学年（4・5・6年生）に九九を聞いてもらい、教員が最終チェックをする取り組みを行った。夏休みまでに、学年で109人の児童が九九を合格したが、再び忘れてしまっている児童も多い。そのため、宿題や朝の補充学習でかけ算九九やわり算、あまりのあるわり算の復習問題を繰り返し解く時間を設定していく。
- ② 授業では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実のための指導の工夫を行う。

「個別最適な学び」	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人が、主体的にめあてに向かって学習に取り組めるよう、自分のめあては自分でたてる場を設定する。 児童一人一人が自分に合った方法で学習を進めることができるよう学習方法を選択する場を設定する。（ノートに図や式、言葉を書く・オクリンクプラスのカードを活用する・オクリンクプラスに送られた友達のノートを参考にする・友達と話し合う・実物を操作する）
「協働的な学び」	<ul style="list-style-type: none"> 友達に聞いたり教えたり、確認したりすることで自信をもち、理解を深められるように、ペアトーク・フリートーク（小さなアウトプット）の場を何度も取り入れる。 特に考えさせたい場面では意図的に教師が誤答を示すことで、児童に説明させる場を設定する。

6 指導と評価の計画（全4時間）

小単元	ねらい	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
大きい数のわり算	1	○ $60 \div 3$ の計算の仕方を考えることができる。	・知① (適用問題・振り返り)	
	2 構	○ $69 \div 3$ などの計算の仕方を考えることができる。		○思① (行動観察・適用問題) ○主① (行動観察・適用問題)
分数とわり算	3	○分数で表された数について、 $80 \div 4$ の計算を用いて求めることができる。	・知① (適用問題・振り返り)	
	4	○分数で表された数について、 $84 \div 4$ 、 $88 \div 4$ などの計算を用いて、テープの長さが違う理由を考えることができる。		○思① (行動観察・適用問題) ○主① (行動観察・適用問題)
	5	○学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り、価値づける。	○知① (単元テスト)	○思① (単元テスト)

・は指導に生かす評価、○は記録に残す評価

第2時（2／4時間）

(1) 本時の目標

- $69 \div 3$ などの計算の仕方を考えることができる。

(2) 本時の評価

到達度	具体的評価規準	判断の目安
十分に満足できる	$69 \div 3$ などの計算の仕方を、既習の除法計算の仕方や数の構成を基に考えることができる。	$64 \div 2$ や $96 \div 3$ などの計算の仕方について、適切な説明を選択したり、自分で記述したりすることができる。
概ね満足できる		$64 \div 2$ などの計算の仕方について、適切な説明を選択することができる。
努力を要する状況の児童への手立ての例	黒板に計算の仕方や、考え方のヒントとなるものを残し、「位ごとに分けて計算」すれば答えを求められることが確認できるようにする。	

(3) 本時の学習過程

学習過程	学習活動	予想される児童の反応	・留意事項 ○「数学的な見方・考え方」を働かせるための手だて評価【観点】（評価方法）
導入	<p>1 本時の問題を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>69まいの色紙を、3人で同じ数ずつ分けます。1人分は何まいになりますか。</u> <p>2 見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「前回の学習と違うところある？」 ・ 「同じところはあるかな？」 <p>・ 「今日のわり算は、先生はできないと思う。だって3の段の九九は、$3 \times 9 = 27$までしか習ってないよ。」</p> <p>3 めあてを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「今日のめあてどうする？」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回とは色紙の枚数だけ変わりそう。 ・ 前は、60枚ぴったりだった。 ・ 1の位が、0だったのに9になっている。 ・ 3人で同じ数ずつ分けるのは前回と同じ。 ・ 今日もうり算を使いそうだ。 ・ わり算はかけ算を使えば求められるよ。 ・ いや、できるよ！！ ・ 先生、昨日もできたよ！ ・ かけ算のときも、（位を）分けたらできたよ！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で問題を読む習慣をつけるため、数値に着目させるような提示の仕方はしない。 ・ ペアトークの場を子供の様子を見て随時設定し、自分の気付きに自信を持ったり、友達の考えをヒントにして気付いたりできるようにする。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎ノートや教科書を見ながら、前時の学習と本時の学習を比較している児童の姿を価値付ける。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ノートに分かるように説明してくれる？」と問いかけることで、分からない人にも伝わるように書く意識をもたせる。
		<p>(例) ・ わられる数がぴったり何十ではないわり算 ($69 \div 3$) の仕方を考えよう。</p> <p>・ 1の位が0ではないわり算 ($69 \div 3$) の、答えの求め方を考えよう。 等</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展開</p>	<p>4 自力解決をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートに図や式、言葉を書いて求める。 ・オクリンクプラスのカードを活用する。 ・友達と話し合いながら解決する。 ・実物を操作しながら理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、問題を図にして表してみよう。 ・ノートに書くよりオクリンクプラスのカードを使う方がいい。 ・よく分からないから友達にとりあえず聞きに行こう。 ・実際に69枚の色紙を3人で分けてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った方法を選ばずに学習が進んでいない児童に対しては、「どうする？」と問いかけ、まずは学習方法を選ばせる。選べた時には肯定的な声掛けをする。 ※教師の一方的な指導にならないよう留意する。
	<p>5 集団解決をする。</p> <p>「答えどうなった？」</p> <p>「どうやって求めたの？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図をかきました ・式をかきました ・言葉で説明しました <p>・「69を6と9に分けたら15になっちゃうよ。」</p> <p>「出てきた考え方の中で、『同じ・にている・違う』ところは、あるかな？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・$69 \div 3 = 23$。1人分は23枚になる。 ・69を、10の束を6ことバラ9に分けて、それぞれ3人に分けた。 ・69を、十の位と一の位に分けて計算する。$60 \div 3 = 20$、$9 \div 3 = 3$。 ・$60 \div 3$は昨日学習したよ。60は10のまとまりが6個分ということだったよ。だから$6 \div 3$が使えるよ。 <p>◎69を60と9ではなく、6と9に分けていた児童がいた際は、「10をもとにすると、60を6と考えてもいい」という発言を引き出し、肯定的な評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どれも「位ごと」に計算しているところは同じ！ ・どれも「分けている」！ ・「10のまとまり」「10の束」で考えている！ ・表し方は違うけど、考え方は似ている！ 	<p>◎式や答えだけでなく、自分の考えや理由を、他の人に分かりやすく伝わるように書いている児童に、肯定的な評価をする。（特に本時のまとめにつながる「位ごと」「分ける」「10のまとまり」「10の束」などの言葉）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式の答えが出せても、問題の答えを出していない児童がいるので、問題の答えについても問いかける。 ・「位ごと」「分ける」「10のまとまり」「10の束」などまとめにつながるキーワードを板書に残す。 ・図（折り紙）の分け方に着目させ、「〇〇さんは、まず何から分けてた？」と問うことで、「10の束」と「バラ」の違いや、「位ごと」に分けていることに気付かせるようにする。 ・69をサクランボのように分けている児童には、「どうして60と9（6と9）に分けたの？」と問うことで、「位ごと」に分けていることに気付かせるようにする。 ・「位ごと」や「10のまとまり」につながる考え方に気付かせたい時は、個と教師だけのやりとりにならないよう、随時ペアトークを入れ、全体で共有するよう留意する。 ・ペアトークやフリートークをして共有する場を設ける。 <p>○位ごとに分けて計算すればよいことに気付かせるため、共通点を考えさせる場を設定する。</p>

		<p>◎本時のまとめにつながる 「位ごと」「分ける」「10のまとまり」「10の束」などの言葉を使って説明している児童に肯定的な評価をする。</p>	
終末	6 本時のまとめをする。		<p>・児童の言葉でまとめをつくる。</p>
	<p>69÷3は、69を60（60は10のまとまりを6こ）と9に分けて、60÷3と9÷3のように、位ごとに分けて計算すれば、答えを求められる。</p>		
	7 チェック問題を解く。	<p>◎机間指導を行い、一人一人にその場で評価を行う。</p>	<p>(適用問題プリント) ① 64÷2 「64÷2=()」。 ☐わけ 選択する ② 96÷3=() ☐わけ 記述する</p> <p>・間違えていても、すぐに正答を教えるのではなく、一人で考えさせる時間をとる。 ・オクリンクプラスにふりかえりカードを送る。</p> <p>【思考力、判断力、表現力】 64÷2や96÷3などの計算の仕方を考えている。 (プリント・カード)</p>
8 本時の学習を振り返る。			

(4) 準備物

問題プリント、適用問題プリント、タブレット（オクリンクプラスにカード）、板書用の色紙、児童用の色紙

(5) 板書計画

